



Japan
Heart

医療の届かないところに医療を届ける

Vol.05

2018年冬号

ジャパンハートニュース

Japan Heart News

Topics

- ・ジャパンハートこども医療センターで小児がんの治療がスタート（カンボジア）
- ・巡回診療で発見した患児の手術と、子どもが抱いてくれた夢（ミャンマー：ワッヂエ慈善病院）
- ・うれしい便り「スピーチコンテストの受賞と映画上映会の開催」（ミャンマー：養育施設Dream Train）
- ・久しぶりの手術活動 -ウドムサイ県病院からの報告（ラオス）
- ・小児がん患児とご家族のお出かけをサポート（Smile Smile Project）
- ・国際緊急救援を実現するのに必要な3つの柱（iER：International Emergency Relief）



ジャパンハートこども医療センターが開院しました。 周辺諸国的小児がん患者の受け入れも視野に入れ、 治療もスタートしています。

ジャパンハートは、2016年にカンボジアの拠点となる病院を開院し、地元の病院をサポートしながら治療を進めていましたが、さらに今年の6月に小児病棟を増設し、8月より小児がん(固形がん)の治療も開始しました。

カンボジアでは小児がんはほとんど治らない病気であると認識され、さらに治療費も高いため、特に手術が必要な固形がんの患者の多くは治療を諦めていると考えられています。



そのためジャパンハートカンボジアでは周辺の大病院に向けて「小児外科のドクターが定期的に来るため、手術の実施が可能。固形がんが疑われる患者さんを紹介してほしい」と案内し連携を始めました。その結果、当初は今年度で5名の子どもの受け入れを目標としていましたが、3ヶ月で既に10名を超える小児がんの子どもの紹介があり、現在ジャパンハートでの治療を始めています。小児がんの入院は長期になることが多く、経済的負担も大きいため、家族が安心して治療を続けられるよう、家族への経済支援も開始しました。



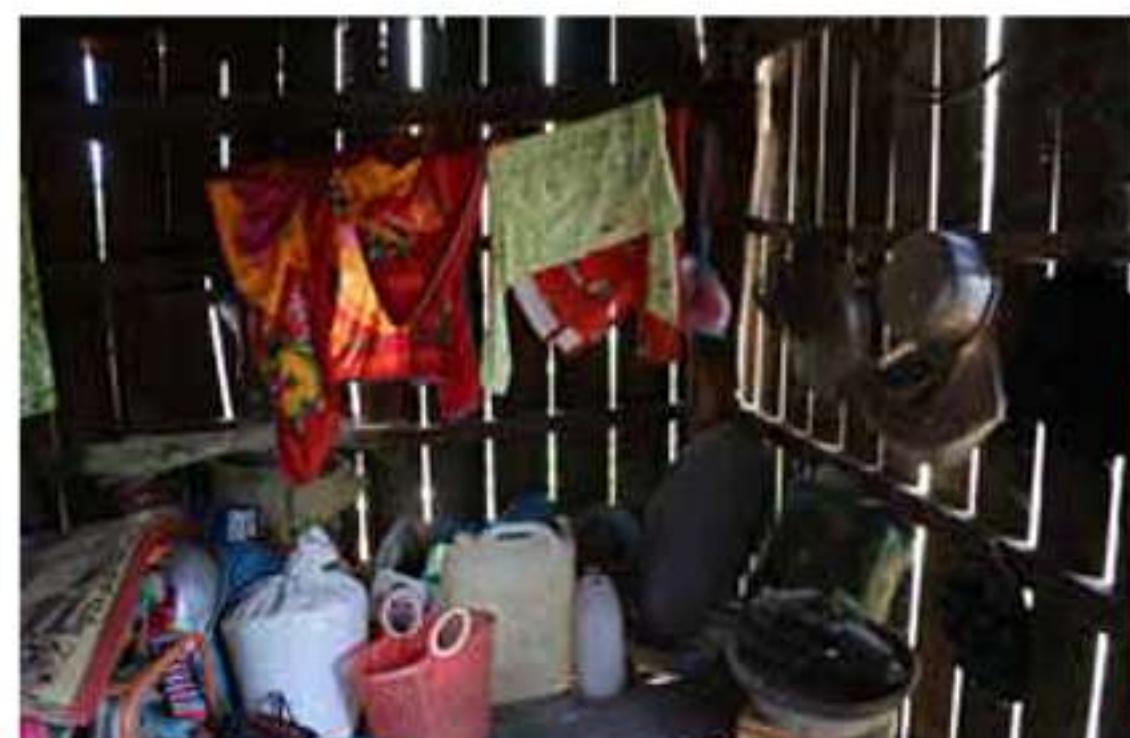
将来的にはジャパンハートが活動するミャンマー・ラオスなどからも小児がん患者を受け入れ治療することを目指しています。今後も病気を治すだけでなく、患者さんやその家族の心を救うことのできる病院として活動を進めています。



小野薬品工業株式会社様のご寄付で心肺蘇生法の練習用マネキンを購入させていただきました。写真はマネキンを使用して一次救命処置講習を実施しているところです。

給食センタープロジェクト開始。

カンボジアでは患者の食事は家族が準備することが一般的ですが、小児がん治療に際して、免疫が下がった子ども達へ衛生的で栄養のある食事を届けることが喫緊の課題になっており、給食センターを建設することとなりました。カンボジアで小児がんと闘う子どもの自宅の衛生環境は十分ではなく、治療中の一時帰宅の際に感染しないよう家族への衛生指導も必要です。そのため医療スタッフや家族への衛生・栄養指導も併せて実施する予定です。将来的には小児がん以外の患者への給食提供や、地域住民にも開放する食堂の運営を視野に入れて計画を進めています。



久しぶりの手術活動-ウドムサイ県病院からの報告

9月4日(火)～7日(金)、事業地ウドムサイ県病院で手術活動を行いました。このミッションの為に、日本から遠藤医師が駆けつけ、ラオスからは長期ボランティアの日本人医師が活動を取り仕切ってくれました。甲状腺疾患の患者さん5名、それ以外の腫瘍疾患の患者さん2名に手術を行いました。現地の外科医も執刀し、日本人医師と協力して無事に手術は成功しました。全ての患者さんは翌週には退院し、笑顔で家族とともにそれぞれの家に帰って行きました。患者さんの一人が、「使って下さい!」とスタッフ全員に、自分で作った刺繡のバッグをくれました。心から「よかったです」と思える瞬間でした。

ラオスでは、ラオス政府と当団体間で医療活動に関する覚書(MOU)の締結に時間がかかり手術活動ができない状態が続いていましたが、今後は3ヶ月に一回のペースで手術活動を再開します。病院にとっても、患者さんにとっても、有益な医療の提供となるよう活動を展開していきます。

そして、新たに二人の優秀なスタッフが加わり、ラオスチームの体制も新しくなりました。今後もウドムサイ県病院のスタッフと様々な形で対話し、より強固な協力体制を整え、患者さんに笑顔を届けられるような事業にしていきたいと思います。



Smile Smile Project

キッザニア甲子園に6組の 小児がんのお子さま・ご家族さまを招待しました

関西に強烈な台風が来る前日の9月3日(月)にキッザニア甲子園ご招待企画(協賛:シスメックス株式会社)を実施しました。スタッフは2名(吉岡医師・岸川看護師)、社員ボランティア、運営ボランティア、アンバサダーゆりもん、学生ボランティア合わせて約60名での実施でした。

今回は北九州・兵庫の遠方から来てくれたご家族がおられ、チャイルド・ケモ・ハウスを利用させていただきました。普段はお母さんと二人での旅行が多かったMちゃん、今回はお兄ちゃんとお父さんも一緒に参加! ボランティアの協力もあり、Mちゃんも、お兄ちゃんもそれぞれ楽しむことができました。また、同じご病気のお子さんを持つお母さん同士でお話するひと時も。制限食や復学についてなど、お話する機会を調整させていただきました。



個人企画で富士サファリパークへのご旅行にお付き添いをしました

Smile Smile Projectでは、個人付き添い依頼を年に約10件受けています。9月中旬には富士サファリパークへのご旅行にお付き添いをしました。旅先での体調不良の心配があるというご家族さまの不安を少しでも解消すべく、看護師はタイミングをみてバイタルサイン測定や、表情、行動を見て変化がないか観察します。また緊急時に備えて、受診先等の把握も行います。念願のキリンを見たときのSちゃんの表情はとても嬉しそうでした。ご家族からは「安心して楽しめることができました!」とのお声をいただきました。



子どもたちに伝わる志 ～ワッヂエ慈善病院～

ミャンマーのワッヂエ慈善病院では、手術活動中は5日間で100件以上の手術が行われます。近隣の村々から来る患者さんも多いですが、遠くから来る患者さんもいます。この7歳のテモンテちゃんも数百km離れたカタ村からバスを乗り継ぎ13時間かけて病院にきました。

テモンテちゃんはワッヂエ慈善病院へ来るのは初めてです。彼女は巡回診療で見つかった患者さんなのです。巡回診療ではワッヂエ慈善病院へ来ることができない遠方の村に直接行き、外来診療します。日本の病院が無料で治療をする噂が広がっており、1日で200人以上の患者さんが押し寄せます。

彼女は生まれた時からヘソに塊がありました。我々が村を訪れるまで誰にも見せたことがありませんでした。貧しく病院にかかることができなかったのです。そんな時にジャパンハートの噂を聞きつけ、やっと手術できることになりました。

手術が終わり2日目、テモンテちゃんは「手術をするのは心配だったけど、今はもう大丈夫!みんな優しくて全然怖くなかったよ。村に帰ったら早く学校に行きたいの。将来はね、セアマになりたい!」と元気そう。母親は目を細めて「この子は3人兄弟の真ん中なのだけど、一番勉強する子なの。学校のセアマ(先生)になりたいのね?」と聞きました。

彼女は「違うよ、ジャパンハートのセアマ(看護師)になりたいの!」と元気に言い、看護師の手を握りました。



皆さまのご寄付で麻酔器を購入させていただきました。安全で、患者の体の負担が最小限となる手術のために使用させていただきます。



うれしい便り ～養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)～



毎年、たくさんの子どもたちが自立を達成し卒業していくDream Trainでは、現在約160名の子どもたちが生活しています。平均年齢は、13~17歳と思春期の子どもたちが多く、ミャンマーの学校教育では補うことが難しい「情操教育」のほかに、社会性を身に付けるための「社会的学習」の機会を作り、将来を見据えた学びを深めています。

そんな中、8月に行われた在ミャンマー日本国大使館・ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)共催「第19回日本語スピーチコンテスト」で、日本語クラスに参加する大学生の男の子が敢闘賞を受賞しました。ヤンゴン・マンダレーの応募者約100名の中から受賞することができたことは、Dream Trainみんなが誇りに感じるとても幸せなでき事でした。



ジョンソン・エンド・ジョンソン様からのご寄付で礼拝堂二棟の床にタイルを張りました。

また、10月には日本とミャンマーの映画関係者が協力して製作した、ミャンマー語短編映画『ザ・ゴールデン・ロックーズ』の上映会を行いました。この映画には、なんとDream Trainの子どもたちも出演させていただいています。乾季に入り乾いたDream Trainの庭に、白く大きな布で作った即席スクリーンを出し、初めての出演作を楽しみました。様々な方のご協力のおかげで、子どもたちは日々たくさんの刺激を受けながら、のびのびと成長しています。



iERの活動を支える3つの柱

2014年からスタートした iER= 国際緊急救援事業も今年で5年目を迎えました。このプロジェクトは、災害で医療へのアクセスを奪われた多くの人々に「医療を届ける」事がミッションです。iER はそれを実現するために必要な3つの柱で組み立てられています。

■1つ目の柱「iERチームを構成する災害ボランティアの育成」

災害ボランティア登録のための基調研修を、今年は7月に実施しました。昨年度から開始したこの「災害ボランティア基調研修」はこれまで3回開催、73名が参加し、多くの方がジャパンハートの災害ボランティアとして登録されています。



■2つ目の柱「各国パートナーシップの構築」

iERの支援対象国は、ジャパンハート活動国4カ国に加え、タイ、インドネシア、フィリピンの合計7カ国です。それぞれの国にパートナーを有し、緊急時の連携を取れるよう関係構築を行っています。タイとのパートナーシップでは、タイ東北部にある大学の看護学部の学生に隠岐の病院で日本の僻地医療を学ぶ機会を年1回提供し、ボランティアについて学んでいます。またジャパンハート創設者・吉岡秀人の講演会を開催することなどで、Care Giverの精神を共に養っています。



■3つ目の柱「災害支援活動」

西日本豪雨災害(7月)、北海道胆振東部地震(9月上旬)、2018年インドネシア・スラウェシ島地震及び津波(9月下旬)に対し、先遣調査を実施しました。その中でもインドネシア・スラウェシ島の被害には、本隊支援を決定し、ジャパンハート医療人材の派遣と救援物資支援を行いました。



TOKYO OFFICE NEWS- ジャパンハート東京事務局より

大好評「ジャパンハート国際協力フェス」 2019年も開催します!

途上国では今何が必要とされている?
ジャパンハートは今どんな活動をしているの?
現地で活動する方法、
日本でできる支援の方法を知りたい……。



そんな疑問や質問に、現地で活動してきたスタッフやボランティアがお答えします!

開催日:2019年3月16日(土)@東京、 3月17日(日)@大阪

ゲスト:仲本りささん(現役看護師、イラストレーターとして活躍中!2018年10月に短期ボランティアとしてミャンマーで活動した経験もお話いただく予定です!)

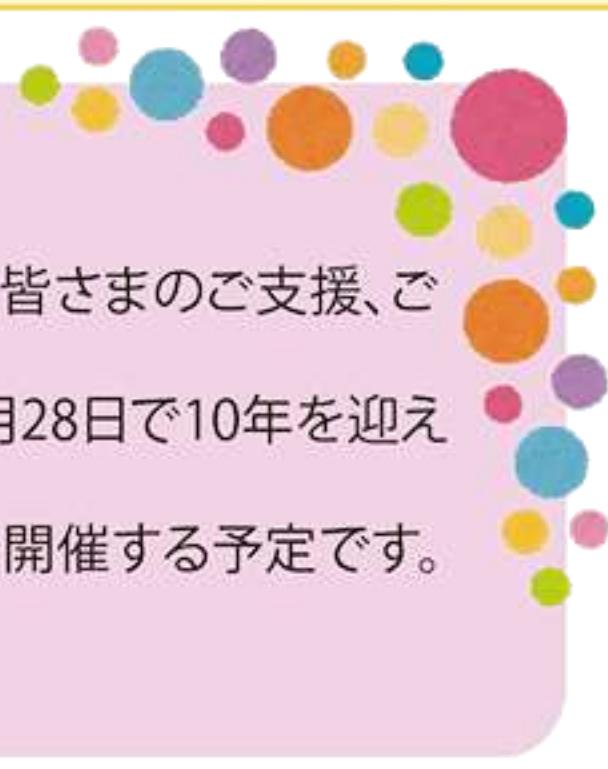
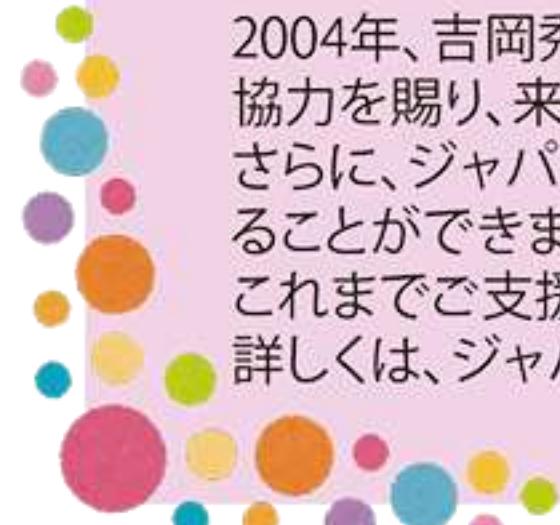
※会場、時間等の詳細決定次第、ジャパンハートのホームページでお知らせいたします。

ジャパンハートは2019年、創設15周年を迎えます。

2004年、吉岡秀人が数人の医療者と現地協力者と共に立ち上げたジャパンハートが、皆さまのご支援、ご協力を賜り、来年無事15周年を迎えることとなりました。

さらに、ジャパンハートが「NPO法人」として新たな一歩を踏み出してから、2018年11月28日で10年を迎えることができました。

これまでご支援を寄せてくださった皆さんへ、来年、感謝の気持ちを込めたイベントを開催する予定です。詳しくは、ジャパンハートのホームページをご確認ください!



日頃よりジャパンハートの活動を支えてくださっている皆様へ

2018年も、もう年の瀬を迎えています。

皆様にとって今年はどのような年だったでしょうか。

今年も私たちジャパンハートは、お一人おひとりの温かなご支援に支えられ、当レポートでご報告させていただいたような活動を続けることができています。本当にありがとうございます。

今もアジアの村で、そして病院で、日本の人たちの優しさを心に残してくれた子どもたちがいるはずです。

そうしてまた、その子どもたちや家族が、誰かに優しさを届けていく。

そのように、世界に優しい連鎖が続していくことを願っています。

2019年、ジャパンハートは団体創設から15年目を迎えます。

私たちは、国や地域、人種、政治、宗教、境遇を問わず、全ての人が平等に

医療を受けることができ、「生まれてきてよかった」と思える社会を実現するため、

これからも皆様と共に歩みながら、活動して参りたいと思います。

これまでご支援いただいた皆様に深く深く感謝を申し上げると共に、

2019年も何卒ご協力を、宜しくお願ひ申し上げます。



ジャパンハート 理事・事務局長
佐藤 抄

ご寄付について

いつもあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。みなさまに支えていただき、「医療の届かないところに医療を届ける」活動を続ける事ができます。今後ともジャパンハートの活動に、ご理解とご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

1.銀行振込

ネット銀行や窓口などから、右記宛に送金をお願いいたします。
できればお名前もご記載ください(匿名も可能です)。

2.郵便振込み

同封の振込の払取扱表をお使いいただき、郵便局からの振込みをお願いします。

3.クレジットカード

ジャパンハートのホームページ内、「寄付をする」のページよりオンライン決済をご利用ください。

【銀行振込先】

銀行名 ゆうちょ銀行
預金種目 当座
金融機関コード 9900
店名 ○九九店(ゼロキュウキュウ)
店番 099
口座番号 0166806

※2018年内にご寄付いただいた方は確定申告にて「寄付金控除」を受けることができます。
(その際、お送りした領収書が必要になりますのでお手元に保管をお願いします。)

※認定NPO法人ジャパンハートへのご寄付は、寄付金控除の対象となります。

※ご寄付に関しての詳細は右記QRコードよりご確認いただけます。



ジャパンハートのホームページが
リニューアルオープンしました！

15年の活動・実績を整理し直し、皆さんに情報を分かりやすくお届けいたします。ぜひご覧ください！

<https://www.japanheart.org/>

おしゃせ

～資料の発送について～

当団体から年次報告書などを郵送しておりますが、「ホームページから閲覧できれば、郵送物は不要です」というご希望を多く伺っております。
そこで、郵送物がご不要の方には、発行の時期に合わせ、ホームページからご覧いただけるリンクのご案内をメールにて送らせていただきます。

【対象郵送物】

◆年次報告書 ◆冬、夏のニュースレター

◆Dream Train ニュースレター (Dream Train サポーター様)

※Dream Train ニュースレターにつきましては、郵送不要の旨をご連絡頂いたサポーター様へは、PDFデータをメール添付の上、お送りします。

※Dream Train 里親様への成長記録は、これまで通り郵送を予定しております。

メールでのご案内をご希望の方は、お手数ですがジャパンハートホームページのお問い合わせフォームより、「郵送物不要、メールでの連絡希望」の旨ご記載の上、ご連絡ください。

